

VII 仙台市内の古墳中における裏町古墳の位置

以上に見て来たように裏町古墳は、三神峯丘陵の麓の傾向に長さ約40m、後円部径25～26m、前方部14～15m、高さ後円部4.5m、前方部0.8mの西面する前方後円墳であり、墳丘上には、帯状をなして墳丘をめぐる葺石と埴輪円筒列を有する。内部構造としては後円部頂上近くに長さ3.6m、幅0.8mの古墳主軸に平行する河原石積の竪穴石室を有する。石室内には木棺におさめた遺骸が埋葬せられたと推定された。早く盗掘に逢い副葬品はすでに失われていたが珠文鏡、鉄鏃、刀子、櫛などが幸いに残存していた。これらの特徴から、紀元500年前後の造営と判定された。

ところでこのような裏町古墳は、仙台市内の古墳の中でどのような位置を占めるのあろうか、仙台市内には約34ヶ所に古墳とおぼしきものの存在がみとめられる。^②

そのうち形も小さく、また埴輪や葺石もなく、内部施設も不明なため古墳であることの確認し難いものや高塚を形成しない横穴を除くといわゆる高塚古墳として確実なものは7基になる。

その中で岩切燕沢にあった糠塚古墳^③以外は、市の西南部に集中的にあることは注意すべきである。すなわち国の指定史跡である遠見塚古墳を最東端とし、法領塚古墳、兜塚古墳、一塚古墳、二塚古墳、裏町古墳と約5kmの間に6基の古墳が存在するのである。

遠見塚古墳 (第11図) 遠見塚一丁目にある。仙台平野の真中に南面してつくられた全長110mの前方後円墳で、墳丘は少し崩れているが、もとの幅は後円部62m、前方部38mぐらいと推定される。高さは後円部6.7m、前方部2.5mである。前方部高が後円部にくらべて著しく低く、かつ幅が狭くていわゆる柄鏡式前方後円墳であるのがこの古墳の形態的特徴である。段は二段ある。埴輪、葺石は発見されない。いまは仙台バイパスで前方部の一部を削られているが、宮城県名取市の雷神山古墳、福島県会津坂下町の亀ヶ森古墳につぐ東北で第3位の大古墳で、昭和43年に国の史跡に指定された。昭和22年進駐軍が霞目飛行場整備のためこの古墳の後円部を崩して土採りした際、墳丘下2mのところの2.25mの間隔を置いて粘土槨が2本あらわれたが、西槨上から土師器の壺が1個採集されただけで他に遺物はなかった。この土師器は南小泉式の土師器であるところから5世紀前半の造営と判定される。仙台市内で最古、最大の古墳である。^④



第11図 遠見塚古墳

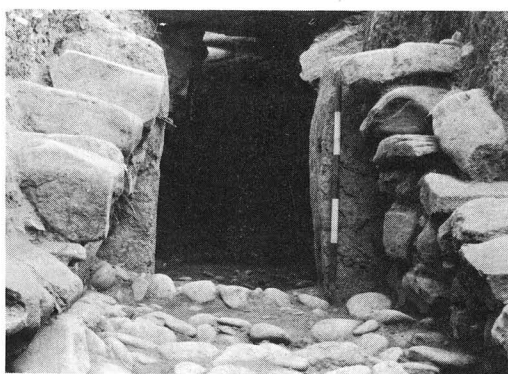
法領塚古墳 (第12図) 遠見塚古墳の北西西1.1km、一本杉の聖ウスル学園の校庭にある。径32m、高さ6mの円墳で、その南方に偏して長さ5.7m、幅1.9mの玄室があり、玄門の前に幅1.24m、長さ

4 m の前庭が続く。市内の古墳で横穴式石室を見ることができるのは、ここだけである。7 世紀初頭のものと思われる。²⁵

兜塚古墳 (第13図) 根岸町の宮城県立農業高等学校のグラウンドのわきにある。径50m, 高さ5.5m, 三段築成で、市内にある円墳としては最大のものである。葺石および埴輪円筒の破片が見られる。まだ発掘されていないので、内部構造は不明であるが、その大きさ、埴輪の存在から見て5 世紀後半の造営であろう。²⁶

一塚古墳 (第14図) 長町鹿野前31番地、すなわち現在の鹿野一丁目にあった円墳であるが、現在は破壊され、その跡には家が建ってむかしのおもかげをしのぶべくもない。円墳の大きさは径24~35m ぐらいのものといわれている。明治39年4月6日、この墳丘の中央部より南東よりの処で板石5枚をもって蓋をした幅約1m, 長さ4.2m, 高さ約1mの平石積石室が発掘され、その中から家形石棺が発見された。この石棺はいま出土遺物と共に東京国立博物館にあるが、砂岩を削り抜いてつくられたもので、蓋と身とからなり、蓋は蒲鉾形で高さ45cm, 長さ238cm, 幅85~90cm, 両側の斜面に径36cm, 円形の縄掛突起が2個ずつ、合計4個ある。内側は深さ23cmの半円形に削られている。身は上縁で測って長さ233cm 幅80~86cm, 高さ58cmで、合せ口は印籠造りになっている。身にも縄掛突起が2個ずつ、4個ある。

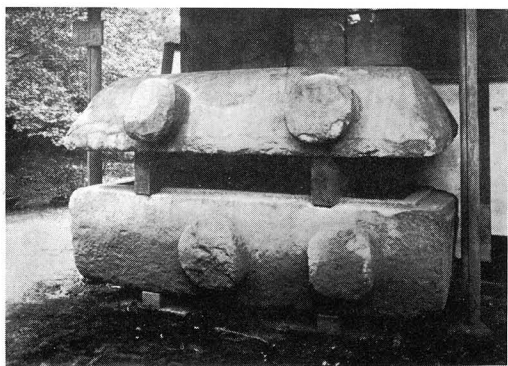
石棺内からは六乳鳥文鏡一面、硬玉製勾玉2個, 碧玉製勾玉3個, ガラス小玉458個, 滑石製白玉6個および金環1個が発見された。



第12図 法領塚古墳横穴式石室



第13図 兜塚古墳



第14図 一塚古墳出土家形石棺

鏡は径16.1cmの後漢時代後半のもので、東北出土の中国鏡として唯一のものである。家形石棺は普通横穴式石室より出土し古墳時代後期に盛行したものとされているが、この石棺は竪穴式石室の中にありしかも棟幅がせまく、かつ縄掛突起が丸い点で家形石棺では古い型式と見られ、6世紀初頭の造営と見られる。この古墳には埴輪はなかったようである。²⁷⁾

二塚古墳(第15図) 一塚古墳の西500mの長町鹿野前9番地にあった。一塚古墳とは指呼の間であったろう。昭和24年に削平されてしまい、現在ではその跡を探すことさえ困難である。大きさについては諸説あるが、長さ約30m、径前方部、後円部ともに15m、高さ後円部4m、前方部2.5mぐらいのものであったとするのが妥当であろう。西向きの前方後円墳であったことは諸書の記述の一致するところである。明治38～39年頃発掘され、後円部から凝灰岩の刳抜石棺の身が出土した。長さ約2.6m、幅約1m、高さについては記したものがないが、写真で見ると70cmぐらいのものであろう。穴の深さは30cmぐらいと伝えられている。上縁が印籠造りにつくられているから元来は蓋があったと思われるが、合蓋は発見されず、板石が出たというが、その板石も発掘者の言によれば石棺の上から出たものではなく、別の場所から出た由である。『仙台市史』では底が丸味をもっているので舟形石棺としたが、高さから見ると家形石棺とするのが適当であろう。

墳丘上には礫石が散在しており、埴輪円筒の破片がひろえた。「石槨、陪塚、濠、階段を有せず²⁸⁾」との報告があるから散在する礫石は葺石かも知れぬが、葺石にしては浮いているものが多かった。すべて失なわれたいまとっては、確かめるすべがない。²⁹⁾



第15図 二塚古墳出土刳抜石棺

このような古墳は古代豪族の墓であり、古代にこの地方を支配していた首長の墓であることはいままでもない。そして古墳は大和地方で発達したものと見られるから、その仙台地方における存在は、大和文化の仙台平野への伝播を物語ると共に、当時の仙台地方が古墳によってその権力を表示し得るほどの権力者を必要とする社会になっていたことを示すものである。

仙台附近で古い古墳の多いのは名取市であって、ここは東北第一の古墳地帯である。東北最大の古墳である雷神山古墳、4世紀後半まで溯ると思われる宇ヶ崎一号墳³⁰⁾、埴輪家や埴輪甲を出し、かつ直弧文ある鹿角刀装具を副葬した長持形埴輪石棺を出した経塚古墳³¹⁾、前方後円墳である薬師堂古墳、観音堂古墳³²⁾など東北でも注目すべき古墳がこの地に密集している。仙台市の西南部に存在する古墳は名取の古墳と一連のものとして理解すべきであろう。

仙台市内に古墳がつくられるようになったのは遠見塚古墳が示しているように、名取地方よ

り若干おくれて5世紀前半と見られるが、遠見塚古墳が東北第3位の大古墳であることは、東北有数の首長が仙台附近に居住していたことを示している。仙台平野は律令政府の東北開拓によって、つまり多賀城設置以後、はじめて拓けたものではなく、それ以前から拓けていたのである。裏町古墳は兜塚古墳、一塚古墳、二塚古墳などとともに、その後も依然として仙台附近が東北の政治、文化の一つの中心をなしていたことを物語るものである。7世紀になると古墳が少なくなるのは、この頃から横穴が流行して来たためであって土手内、宗禅寺、向山、燕沢、岩切台、入生沢など市内各地に多くのこっている横穴群^⑳がこれを証している。

裏町古墳はこの中にあって兜塚古墳とほぼ同じか、あるいはこれに次ぎ、二塚古墳に先行するものと思われる。

〈註〉

- ① 伊東信雄「仙台市内の古代遺跡」(『仙台市史』第3巻, 昭25) P69
- ② 宮城教育大学考古学研究会『宮教考古』第5号(昭48) P3～22
- ③ 宮城教育大学日本史研究会『歴友』第3号(昭43)
- ④ 仙台市教育委員会「三神峯遺跡北東部調査概報」(昭48)
- ⑤ 昭和48年1月, 採集者仙台市富沢字金山13. 今野由太郎氏より, 仙台市教育委員会に寄贈
- ⑥ 註②文献P14, 15
- ⑦ 宮城県教育委員会「安久東遺跡発掘調査現地説明会資料」(昭47)
- ⑧ 浜田廉「名取鎮所址」(『宮城県史蹟名勝天然記念物調査報告』第5輯, 昭4)
- ⑨ 仙台市教育委員会「仙台市富沢裏町古墳試掘調査概報」(昭48)
- ⑩ 宮城県教育委員会「八谷館跡」現地説明会資料(昭48)
- ⑪ 仙台市茂ヶ崎の大年寺山一帯に, 14世紀中頃から, 1世紀以上にわたり当時, 名取地方の領主であった栗野氏が居城していた。空濠, 土塁の一部が今なお現存する典型的な中世の山城である。
「仙台領古城書上」参照
- ⑫ 伊東信雄, 伊藤玄三「会津大塚山古墳」(『会津若松市史』別巻1, 昭39)
- ⑬ 穴沢和光「内行花文鏡を出土した会津の一古墳」(『古代学研究』25, 昭35)
- ⑭ 福島県史6
- ⑮ 福島県史1 P183
- ⑯ 志間泰治「宮城県伊具郡金山台町古墳群調査概報」(『歴史』7, 昭29)
- ⑰ 註①文献P61～66
- ⑱ 「日光山古墳群」(『古川市文化財調査報告』第2集, 昭48)
- ⑲ 註②文献P10
- ⑳ 註②文献P14